

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670500117
法人名	医療法人 親貴会
事業所名	グループホーム もぜ
訪問調査日	平成21年7月14日
評価確定日	平成21年10月2日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4670500117
法人名	医療法人 親貴会
事業所名	グループホーム もぜ
所在地	鹿児島県いちき串木野市春日町24番地 (電話) 0996 - 32 - 3033

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年7月14日	評価確定日	平成21年10月2日

【情報提供票より】(21年5月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15人	常勤	11人, 非常勤 4人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	4 階建ての 2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18000 ~ 24000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 1050円			

(4) 利用者の概要(5月27日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	2名	要介護2	7名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	65 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	えんでん内科クリニック・えのもと歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から串木野の街に向かう途中の住宅街に立地し、社会資源や交通、買い物と利便性に富んだグループホームである。ビルという外観をカバーするために1階の玄関周りに花を植えたり、犬を飼ったりと家庭的な雰囲気を作っている。地域との交流も盛んで、中でも下校時の「子ども見守り隊」はホームとしての地域貢献を兼ね、利用者と地域の子もたちとの自然な交流の機会にもなっている。医療面でも充実しており、かかりつけ医の往診や母体病院の看護師と24時間体制で協力関係ができており、家族の安心にもつながっている。
管理者、職員は毎日楽しく笑って過ごせるようなホームでありたいと日々のケアに邁進している。また、利用者が家族やこれまでのなじみの場所との関係が途切れないよう、出来るだけ利用者の思いを叶えられるようにホームとして支援していけるよう取り組んでいる。今後は更に地域との交流を密にし、地域と密着した生活の提供が期待できるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型理念の作成については地域との関係作りの重要性を理解しており、地域の方々とも十分に話し合い作成に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各フロアで主任を中心にスタッフ全員で取り組み、自らを振り返り、考える機会として評価の意義を理解し、問題点については協議し、スタッフ全員で問題意識を共有し改善に努めている。外部評価の結果は運営推進委員、利用者家族にも報告している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	公民館館長、公民館主事、家族代表、行政職員の参加を得て2ヵ月に1回開催している。「子ども見守り隊」についてホーム側から提案を昨年より取り組んでいるが、運営推進会議を通じて今後も引き続き協力の要請を地域の方々からもらうなど、関心を持ってもらえホームの啓発にもつながっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱を各階入り口に設置しており、家族会の際や面会の際に意見、要望など聞き出すように努めている。出された意見、要望については改善に結び付くようにスタッフ全員で話し合い運営に反映させ、結果は全家族に報告している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の公民館行事(敬老会、新年会など)に参加したり、夏祭りで利用者と職員が踊りを披露したりと積極的に地域行事に参加し、交流の機会を作っている。下校時の「子ども見守り隊」で利用者とともにホームの1階で見守りをしたり、小学校の田植えに利用者とともに参加するなど子どもたちとの交流も盛んである。緊急連絡網に地域の方々にも入ってもらっており、協力体制ができています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は地域との関係作りの大切さを理解しており、関係者との話し合いを十分に持ち、地域密着型サービスとしての理念の作成に取り組んでいる。		今後も引き続き地域密着型サービスの理念の作成への取り組みに期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内の目につくところに掲げ、管理者、職員は日々のケアでも理念に沿った支援を心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の公民館行事(敬老会、新年会など)に参加したり、夏祭りに利用者と職員が踊りを披露したりと積極的に地域行事に参加し、交流の機会を作っている。下校時の「子ども見守り隊」で利用者とともにホームの1階で見守りをしたり、小学校の田植えに利用者とともに参加するなど子どもたちとの交流も盛んである。緊急連絡網に地域の方々にも入ってもらっており、協力体制ができてい		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各フロアで主任を中心にスタッフ全員で取り組み、自らを振り返り、考える機会として評価の意義を理解し、問題点については協議し、スタッフ全員で問題意識を共有し改善に努めている。外部評価の結果は運営推進委員、利用者家族にも報告している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	公民館館長、公民館主事、家族代表、行政職員の参加を得て2ヵ月に1回開催している。「子ども見守り隊」についてホーム側から提案をし昨年からは取り組んでいる。運営推進会議を通じて今後も引き続き協力の要請を地域の方々からもらうなど、関心を持ってもらえ、ホームの啓発にもつながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの運営などについて担当者から助言をもらうなど、積極的に連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話や面会時に近況を報告している。利用料の支払いをホームに持参していただくようお願いしているので、ほとんどの家族と月1回は話をする機会がある。金銭管理は個別の出納帳で整理し家族に確認し、捺印をもらっている。職員の異動は面会時に直接紹介し、ホーム便りの「もぜ便り」にも写真と自己紹介文を合わせて掲載している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を各階入り口に設置しており、家族会の際や面会の際に意見、要望など聞き出すように努めている。出された意見、要望については改善に結び付くようにスタッフ全員で話し合い運営に反映させ、結果は全家族に報告している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者はなじみの関係の大切さを理解しており、やむをえない場合以外はユニット間の異動は行わない方針である。離職についても最小限に抑えるように管理者、スタッフで十分な話し合いを行い、改善に結び付けるなど職員の定着に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会は法人より指導者が来て水曜日の午後に行っている。法人全体の研修会も月1回夜あり、職員に参加を促している。外部研修は全職員が交代で参加できるように配慮している。研修参加者は研修報告を毎月の会議で発表し、全職員が知識を共有できるようにしている。また、資格取得の支援もおこなっており、法人内の職員とともに勉強会を行うなどしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さつま半島地区グループホーム協議会に加入し、意見交換や情報交換など行い、交流している。また、串木野4ヵ所のグループホームとスタッフも参加して親睦会を行い、より密なネットワークづくりを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>病院や施設から直接入居になる場合は管理者、計画作成担当者が事前に数回足を運んで本人、家族と十分な話し合いをもって入居してもらっている。在宅からの入居の場合も管理者、計画作成担当者が自宅を訪問し、話を聞いている。また、本人、家族に事前に見学してもらい場の雰囲気を見てもらってから入居に到るようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理の仕方、あくまき作り、魚釣りの仕方、焼き芋の手順、畑仕事の植え付けの時期や手順などを職員は人生の大先輩である利用者から教わりながらともに楽しく日々を送り、喜怒哀楽を素直に出せる関係作りに努めている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個別の担当者を決めており、希望意向の把握に努めている。帰宅願望があるが諸事情により応じることができない利用者のために1軒家の利用を検討中である。また、意志疎通の困難な利用者には少しでも刺激になればとの思いで育った地に連れていったりするなど、できるだけ本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>申込時、本人、家族の思いや要望を聞き、担当者会議、フロア会議でのそれぞれの意見などを反映した本人本位の介護計画を作成している。計画の中に地域密着型として、外出の機会も入れ込んでいる。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>申し送りノート、個別の生活介護記録などを基に、モニタリングを行い、評価をして定期的な見直しを行っている。入退院、状態変化の際は状況に応じて都度の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診は家族が連れていく場合でも職員が付いて行き、医師の指示を直接聞くようにしている。また、家族の了解のもとに自宅訪問、墓参りなど本人の希望に沿えられるように外出支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の支援がなされている。また、協力医療機関の医師の往診も月3回あり、法人の病院の看護師とも24時間連絡がとれるような体制ができています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人、家族に希望を聞き、母体病院を含む全スタッフで方針を共有して対応している。ホームとしての指針は作成していないが、家族には年1回ターミナルケアについてのアンケートと、状態変化のある利用者の家族とは頻りに意見を聞いて意思確認を行い、ホームとしてできる限りの支援を行っている。		家族の安心のためにも、ホームができる支援の内容を文書化したホームの指針を作成することを検討されたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのこれまでの生活歴を尊重し、誇りやプライドを損なわないように配慮している。1年に1回の割合で接遇に関する研修も行っている。写真掲載など、本人、家族の了解をもらって行っている。職員採用時の個人情報に関する誓約書もとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを心がけて利用者のペースに合わせた見守りと支援に努めている。また、利用者一人ひとりの力量を見極め個々に合った1日の過ごし方を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力量に合わせて、下ごしらえ、お盆ふき、おしぼりたたみなど、職員とともに行い、力を発揮する場面を作っている。また、菜園で収穫した野菜を調理するなど食事を楽しむ工夫をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴日は決めておらず、毎日入浴できる体制をとっている。1日2回入る利用者もいたり、夜の入浴も可能である。希望があれば近くの温泉に職員とともに行ったり、入浴拒否の利用者にも温泉に誘うなどして入浴を楽しみなものにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、洗濯物干し、お盆ふき、畑作り、調理手伝い、新聞でゴミ箱を作るなど、生活歴や力を活かして役割を発揮する場面を提供したり、魚釣り、カラオケ、踊り、アートフラワー、外食、ピクニックなど楽しみごと、気晴らしの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の買い物や職員が外出の際は極力利用者を交代で同行するようにし、お手伝いをもらうなどしている。また、子ども見守り隊で下校時に外に立つようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、日中は施錠せず、好きなよう行動できるように支援している。外にでかけることの制限はせず、常に見守りで付き添っていくようにしている。また、日頃の言動で外出傾向が把握できるので、特に注意をはらい、見守っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回地域の方々、家族も参加して避難訓練を実施している。近隣に居住の職員及び家族の協力体制もできており、緊急連絡網に公民館長なども入ってもらい地域の協力も得られるように話し合っている。また、AEDも設置しており、母体病院看護師の指導のもと、全職員が取り扱いできる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは法人内の管理栄養士にアドバイスしてもらい、食事摂取量、水分摂取量は記録している。また、個々の状態や力に応じて食事形態をおかゆやペーストにしたりと支援している。月1回の体重測定も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングには座り心地のよさそうなソファがあり、畳のコーナーも利用者が気に入って過ごしている。夜、不穩で寝付けない利用者はこの畳コーナーに布団を敷いて寝てもらうこともある。完全にバリアフリーではないので、段差を改修するなど検討している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、タンス、エアコン、椅子、夏用の籐のカーペットなどそれぞれなじみのものが持ち込まれ、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。希望があれば畳も可能である。		